

贊美の歌

第四集

藤本光夫

## さんびの詩うた第四集によせて

中原道夫

この詩は、愛されていることを深く自覚している人の魂の叫び、愛する方に向かってあふれる感謝とさんびの泉です。

疲れ、傷つき、死にひんした旅人の回復の詩、見い出され、抱かれ、負われて、なつかしの我が家に戻った迷える小羊の喜びと平安の詩、神の御子の十字架の死を通して罪を赦され、神の子として愛され、信頼され、期待されていることの実感の詩です。

絶大な愛の犠牲を払って下さった父なる神と救い主に喜んでいただきたいと、与えられた新しい人生を差し出した人の切望の祈り、信頼という時の中で人となられた神の御子イエス・キリストの高貴な品性に触れて、盛り上がった感動の大波、また、約束通り間もなく、尊いお方、愛するお方にお会いできる確かな希望の詩です。

この詩に私の魂も共鳴し、神に向かって新しいさんびの翼が与えられた気がします。願わくは、あなたの魂の琴線にもふれて、溢れる賛美となりますように。

# 目次

叫んでごらん	一	美しく去って行った花に	一九
解っておられて	二	(工藤美賀子姉を偲んで)	
私になりたい	三	幸福について	二〇
神様がくださった美しさ	四	青い鳥について	二一
愛が聞こえる	五	時が来ないか	二二
神のキリスト・イエス様	六	糸屑に	二三
教えてもらおう	七	海	二四
バラダイスがある	八	背負ってお行き	二五
信仰の戦い	九	悟らなかつた	二六
イエス様が言われる	一〇	神様には解ります	二七
罰せられるべき方	一一	霊的な世界	二八
祈りの力	一二	感謝	二九
石は石であり	一三	回復	三〇
聖書	一四	信仰が必要です	三一
赦しのすばらしさ	一五	この方は	三二
血の働きは	一六	讃えさせてください	三三
恵みの数	一七	待っておられた	三四
「ご免なさいと有難う」の歌	一八	み旨の深さ	三五
霊の死のために	一九	解らないことの向こうで	三六

耕すために . . . . .  
 み栄えあれ . . . . .  
 おいでになりました . . . . .  
 声なき声 . . . . .  
 あれがわたしです . . . . .  
 味わうと . . . . .  
 驚くべきこと . . . . .  
 檻の中のひび . . . . .  
 主がおいでになるところ . . . . .  
 それが何になろう . . . . .  
 私の中にお住みになつて . . . . .  
 もう一人おられた . . . . .  
 人ではありません . . . . .  
 道はないか . . . . .  
 取税人マタイに . . . . .  
 気がついたら . . . . .  
 永遠の生のルール . . . . .  
 みことばを読む . . . . .  
 区別が出来ない . . . . .  
 宝物は . . . . .  
 人生を造ることは . . . . .

三七  
 三八  
 三九  
 四〇  
 四一  
 四二  
 四三  
 四四  
 四五  
 四六  
 四七  
 四八  
 四九  
 五〇  
 五一  
 五二  
 五三  
 五四  
 五五  
 五六  
 五六

私であるために . . . . .  
 お入りになつて . . . . .  
 世は狂気で  
 (完走した聖徒たちへ)  
 神様が招いておられるから . . . . .  
 新しい人を待つ神様 . . . . .  
 回復してくださつた . . . . .  
 飛ぶことの難しさ . . . . .  
 光なる主イエス . . . . .  
 新しいことはないが . . . . .  
 時は神のもの . . . . .  
 声があつた . . . . .  
 真の愛の姿 . . . . .  
 真の神 . . . . .  
 野城そめ姉を偲んで . . . . .  
 お与えになりました . . . . .  
 息子たちへの遺言 . . . . .  
 現わされた . . . . .  
 喰らうものが . . . . .  
 生かされたのだから . . . . .  
 わたしを覚えなさい . . . . .

五七  
 五八  
 五九  
 六〇  
 六一  
 六二  
 六三  
 六四  
 六五  
 六六  
 六七  
 六八  
 六九  
 七〇  
 七一  
 七二  
 七三  
 七四  
 七五  
 七六

主よ 私のために	七七
主がおられる	七八
主とザアカイの対話	七九
神様 お与えください	八〇
眠りを感じます	八一
平安あれと	八二
朝が来ます	八三
そんな方がおられる	八四
叫び	八五
ゲッセマネの主の祈り	八六
宝を見つけて	八七
友よ	八八
祈り	八九
平安は誰が	九〇
願い	九一
人を造られた	九二
イエス様のプリンシプル	九三
集会	九四
忘れているのです	九五
みんな行くのですね	九六
強いものとは	九七

最初の心を	九八
大きな人とは	九九
あれが君だ	一〇〇
心を休ませるために	一〇一
解るようになりました	一〇二
旅立って行きました	一〇三
(望月千枝子姉を偲んで)	一〇四
みこころの表と裏	一〇五
聞こえます	一〇六
悲しみは恐くない	一〇七
贖いを加えて	一〇八
輝く笑顔をください	一〇九
望みがあります	一一〇
思いが燃えた時に	一一一
もう一つの愛があつて	一一二
鳥たちが歌っています	一一三
仰いでいますと	一一四
心が痛んで	一一五
主がくださった賜物は	一一六
われに返ったとき	一一七
何と難しいことよ	一一八

主に歌え

主にほめ歌を歌え

そのすべての奇しいみわざに

思いを潜めよ

詩篇 一〇五篇 二節

私の主イエス・キリストの

み栄えを歌いつづけよ

## 叫んでごらん

喜びは

どこから来るのですか——

ただ泣いて

人の悲しみを

見つめているのではなく

新しい都の方から

両手ちりてを差し伸べている方に

「主よ お助けください！」と

叫んでごらん

喜びは

どこから来るのですか——

罪の縄目は

十字架の上で解かれました

狭い門から入って

独り子の

贖いの苦しみを辿って

「主よ 感謝します！」と

叫んでごらん

喜びは

どこから来るのですか——

自分の思いを

不信の世界に脱ぎ捨て

み霊たまの御力に

すべてを委ねて

滅びに急ぐ人々に向かつて

「イエスはキリストです」と

叫んでごらん

## 解っておられて

小さな小さなことも

見ておられる神様

みんな知っておられて

大きな大きなことを

なさる神様

何でも解っておられて

すべてを摂理の中で操られて

ちようど良いときに

そつと人の未来に

最善を置かれる神様



私になりたい

もっと広く

もっと深い私になりたい

流されず

飾らず

自分に偽らないで

しっかり前を見て歩くことが出来る

確固たる私になりたい

存在の根拠を弁え

どこから来て

どこへ行くのかを心得て

喜びながら生きることが出来る

本当の私になりたい

自己中心の心を支えている

細胞の一つ一つを

イエス様が流された御血みけちで洗って

清い私になりたい

十字架のイエス様を見上げながら

与えられるすべてを

心から感謝していただいて

新しい私になりたい

神様かぐださった美しさ

ああ バラの芽が伸びる  
若芽の美しさ

ああ バラの苔が膨らむ  
苔の美しさ

ああ 咲き誇るバラ  
咲き誇る美しさ

ああ バラの花びらが散る  
散り行く美しさ

全能の主の時になつた  
素晴らしき知恵の跡